

ジャンタル・マンタル天文台

ジャンタル・マンタル（英語: Jantar Mantar）はインド・ムガル帝国時代の18世紀前半にジャイプル藩王国のジャイ・シング2世がインド北部の5か所に建設した大型の日時計および天体観測施設である。その内、ジャイプルにあるジャンタル・マンタルが一番大型で、世界遺産になっている。

概要

インド・ムガル帝国時代の18世紀前半にジャイプル藩王国の君主であるジャイ・シング2世はすぐれた政治家でただでなく、科学者、改革者でもあった。彼は1727年に王国の首都をアンベールからジャイプルへ遷都して、そこに巨大な日時計を含む天体観測施設を建設した。名称の由来は、ジャンタルがサンスクリット語のヤントラ (yantra) で「機器、機械」の意味で、マンタルが同じくマントラナ (mantrana) で「参考にする、計測する」、ジャンタル・マンタルで「計測する機器」の意味である。

こうしたジャンタル・マンタルは全部で5か所に建設された。

- デリー郊外 (Jantar Mantar, New Delhi、現在はデリー連邦直轄領) - 最初に建設されたもの。
- ジャイプル (現在はラージャスターン州)
- ベナレス (Jantar Mantar, Varanasi、現在はウッタル・プラデーシュ州)
- マトゥラー (同上州) - 1857年に取り壊されて、現存せず。
- ウッジャイン (Jantar Mantar, Ujjain、同上州)

これら5か所あったジャンタル・マンタルの中でジャイプルのものが最大で、2010年にユネスコの世界遺産（文化遺産）へ登録されている。

Wikipediaによる

